



環境保全と再資源化への提言誌

# 月刊廃棄物

Monthly the Waste Vol.48 No.612

since 1975

## ■特集 お片づけ・遺品整理と 一時多量ごみ

■連載 阿部鋼といっしょに学ぶ廃棄物処理法

■連載 芝田麻里のごみエッセイ

■クローズアップ 特定廃棄物埋立処分施設





エコチャットの画面サンプル

# 粗大ごみをAIで判別

## 窓口の負担軽減や利便性向上へ

◎(株)UCDコンサルティング

DATA  
所在地 山口県宇部市  
代表者 内田康博

新型コロナウイルス感染症の拡大をきっかけに、家の中で不要になつたものが一気に廃棄され、多量ごみの排出とともに、自治体で対応に苦慮しているのが粗大ごみだ。粗大ごみを捨てるには、利用者が種類や分別方法、引き取りの有無、手数料などを一から調べなければならず、問い合わせを受ける自治体は電話での対応に追われてきた。

そのような中、(株)UCDコンサルティングは、粗大ごみ判別システム「エコチャット」を開発し、本格的に自治体との協議を始めた。

AI画像認識とチャットシステムを組み合わせた受付システムが特徴。24時間受け付けできるシステムのため、利用者・自治体双方に利便性が高いシステムとなっている。2021年10月21日付で特許庁から商標登録を取得。現在、和歌山県橋本市や神奈川県藤沢市において、システム運用の開発協議を進める。

### 約300種類のごみを解析可能

「エコチャット」は、導入先の自治体ホームページに組み込むことで利用できる。利用者は、携帯

電話のカメラで撮影した粗大ごみの画像を送信することで、ごみの種別を瞬時に判別可能。また、対話式チャットで問い合わせることもできる。

問い合わせ内容は自動で記録・保存されるため、物品や住民からの問い合わせを確認しやすい点も利点だ。AIによる画像認の解析は、約300種類の中から瞬時に判別可能な性能を持つ。

粗大ごみの問い合わせだけでなく、システムのカスタマイズ次第で回収の受付から配車まで連動し、

オンライン決済などにも対応。自治体ごとに異なる処分の手法や手数料などの表示内容を変更する。問い合わせ窓口の負担を大幅に軽減するシステムとして、自治体のニーズに応える。

引つ越しの準備作業などは夜に行われることが多い。同社の内田康博社長は、「24時間受け付け可能な利便性の高さを導入のメリットに挙げる。システムを通じて分別方法を周知することで、「不法投棄の減少や環境意識の高揚につなげたい」としている。

### 廃棄物業界のDX化に貢献

今後、同社では「エコチャット」の用途拡大に向けて、さらなるシステム開発を急ぐ。現地での物品確認や見積もりの手間など回収に掛かる手間が省略できることから、

民間回収事業者からも関心が寄せられているという。「産業廃棄物向けの判別システムとして、撮影した画像からリサイクル可能な資源かどうかを見分ける機能の開発も検討中だ。廃棄物業界のDX化に貢献したい」(内田社長)とした。

(本誌・青木)